

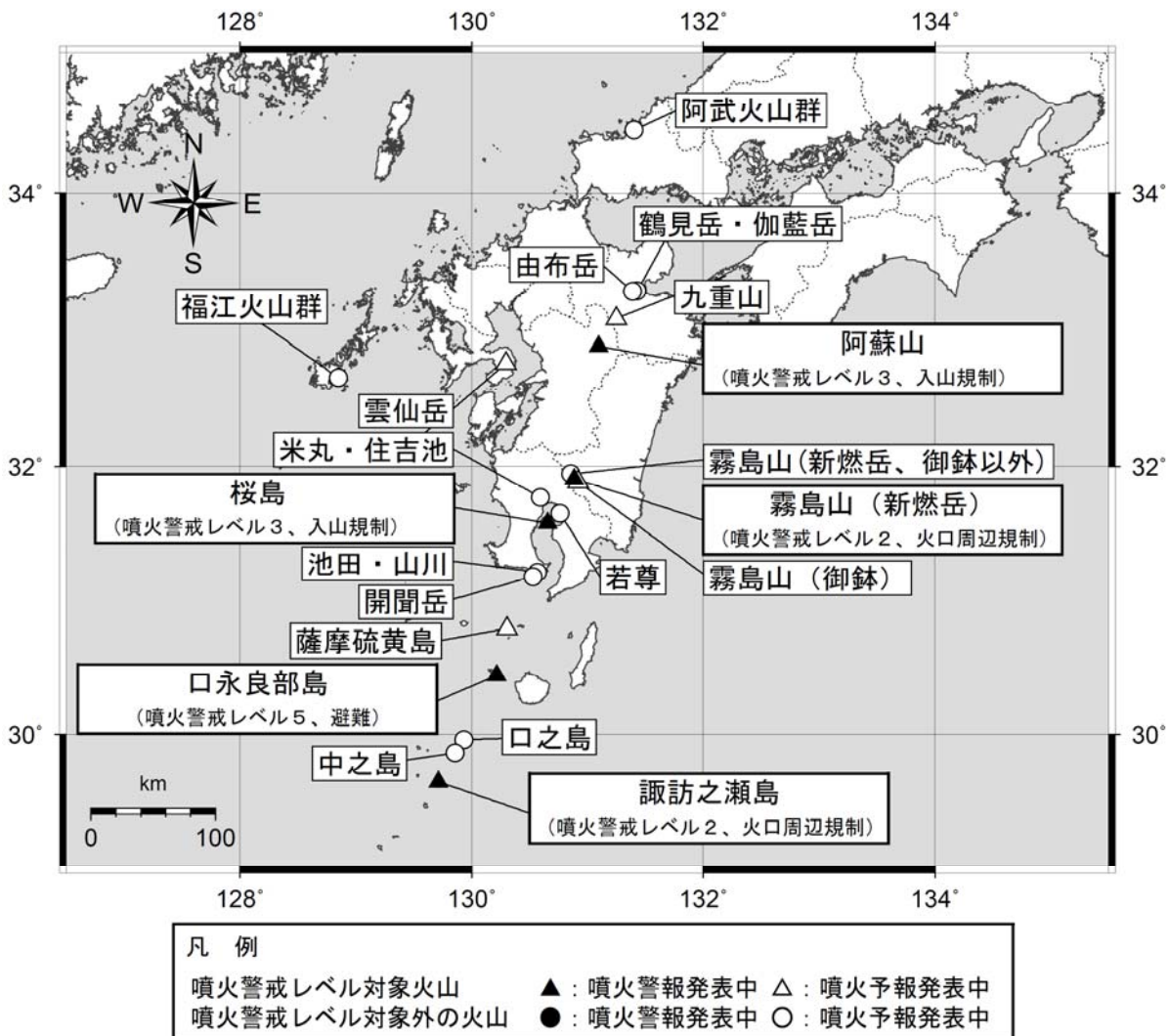
管内月間火山概況（平成27年9月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（9月30日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル5（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島、阿蘇山
	レベル2（火口周辺規制）	霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、 福江火山群、霧島山（新燃岳、御鉢以外）、 米丸・住吉池、池田・山川、開聞岳、 口之島、中之島

※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中です。



噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成27年10月分）は平成27年11月10日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、屋久島町及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

桜島では、9月1日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを4（避難準備）から3（入山規制）に引き下げました。

阿蘇山では、9月14日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

つるみだけ がらんだけ 鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

くじゅうさん 九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、GNSS連続観測によると、わずかに伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

あそさん 阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）] ← 9月14日に噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ

中岳第一火口では、14日09時43分に小規模な噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上2,000mまで上がりました。この噴火に伴い小規模な火砕流が発生しました。火砕流は中岳第一火口から南東方向に約1.3km、北東方向に約1.0kmまで流下したと推定されます。また、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口周辺に飛散するのを確認しました。噴火は30日現在も継続中です。

今後と同程度の噴火が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から1kmを超えて飛散する可能性があるためと判断し、同日10時10分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

中岳第一火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

うんぜんだけ 雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、長期的には2010年頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

きりしまやま しんもえだけ 霧島山（新燃岳） [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は時々発生しました。

GNSS連続観測によると、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向が認められます。また、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013年12月頃から伸びの傾向が見られていましたが、2015年1月頃から停滞しています。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

きりしまやま おほち 霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、7月頃から火山性地震の活動がやや活発となっており、今後の火山活動の推移に注意してください。

きりしまやま
霧島山（えびの高原（こうげん）硫黄山（いおうやま））周辺 [噴火予報（活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

さくらじま
桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）] ← 9月1日に噴火警戒レベル 4（避難準備）から 3（入山規制）に引下げ

桜島では、8月15日に南岳直下付近を震源とする火山性地震の多発や桜島島内に設置している傾斜計及び伸縮計で山体膨張を示す急激な地殻変動が観測されたため、噴火警戒レベルを 3（入山規制）から、4（避難準備）に上げました。

その後、南岳の地下に貫入したマグマの浅部への上昇は停止し、新たなマグマの貫入も生じていないと考えられることから、9月1日16時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 3（入山規制）に引き下げました。

これまで繰り返し噴火活動が続いており、今後も活発な噴火活動が継続すると考えられるため、火山活動の推移に注意が必要です。また、8月15日頃に貫入したマグマのさらなる上昇は今のところみられませんが、再びマグマ貫入がある場合などには、桜島の火山活動の活発化は避けられないものとみられ、引き続き火山活動の変化を注意深く監視していく必要があります。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

さつまいおうじま
薩摩硫黄島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いていますので、火山灰等が噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

くちのえらぶじま
口永良部島 [噴火警報（噴火警戒レベル 5、避難）及び火山現象に関する海上警報]

口永良部島の火山活動の高まった状態が継続しています。

新岳では、6月19日のごく小規模な噴火以降、噴火は観測されていませんが、火山性地震が時々発生しました。火山性微動は観測されていません。火山ガスはやや少ない状態で経過しています。

今後も、5月29日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

大きな噴石の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

屋久島町の避難等の指示に従ってください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

新岳火口から半径 2 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

すわのせじま
諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

おたけ
御岳火口では、爆発的噴火が 89 回発生するなど、活発な状態で経過しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報事項に変更はありません。